

戦争遺跡で考える
「戦争と平和」

平和・交流・共生を学ぶ「館山まるごと博物館」
〜東京湾要塞の軍都・館山の戦争遺跡〜

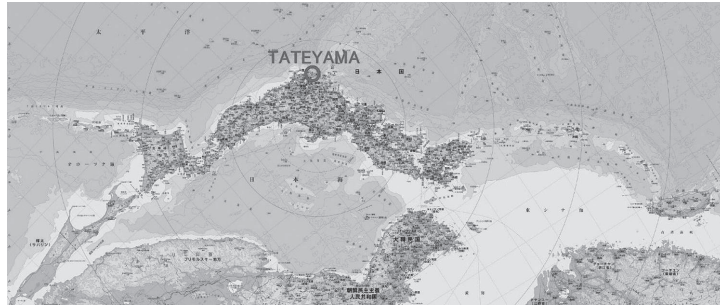
NPO法人安房文化遺産フォーラム

共同代表 池田 恵美子



南北逆さに地図を見ると、房総半島南端の館山は、

弧を描く日本列島の頂点に位置している。太平洋に突き出て、東京湾の入口にあたるため、古くから海路を通じて海洋世界の人びとと交流し、共生してきた地である。その地の利は支配権力にとつての要衝でもあり、中世には水軍をもつ里見氏が170年にわたり安房国を治め、明治期以降は東京湾要塞の重要拠点となった。



環日本海諸国図

狭い半島先端部に、中世城跡群と近代の戦跡群は重層的に存在している。たとえば館山城跡は、戦時下に頂上が削られて砲台が築かれており、現在、八犬伝博物館のある城山公園は城郭遺構と戦跡の両方を見ることができ

る。多彩で魅力的な自然・歴史文化遺産を「館山まるごと博物館」と呼び、スタディツアーガイドをおこなっている。

なかでも戦跡は館山市内に47確認されており、Aランク18（近代史を理解するうえで欠くことができない史跡）、Bランク13（特に重要な遺跡）と高い評価が多い。とりわけ「館山海軍航空隊赤山地下壕跡」（館山市指定史跡）は平和学習拠点として一般公開され、多くの来訪者を迎えている。

平和学習プログラム

NPOのスタディツアーガイドは10人以上の団体に引き受けている。館山の平和学習は、加害と被害の両面から戦争を俯瞰できることも特徴のひとつである。しかし、沖繩・広島・長崎とは異なり、ただ見学しただけではその歴史的背景を理解することがむずかしい。

そこで平和学習プログラムとして、約1時間の座学をテキスト付きで提供している。見学は20人程度のグループ毎にガイドがつき、参加費は一人あたり1500円である。

基本コースの赤山地下壕は所要1時間弱。ほかにも、徒歩10分のところにある掩体壕を

はじめ、団体の希望に応じて多様なオプショナルコースを組んでいる。

座学では、真珠湾と館山湾、沖繩県と千葉県、米軍の本土侵攻計画「コロネット作戦」と大本営の本土決戦防衛計画などの地図をそれぞれ比較しながら、世界戦略上に位置づけられた館山の役割を地政学的に紹介している。

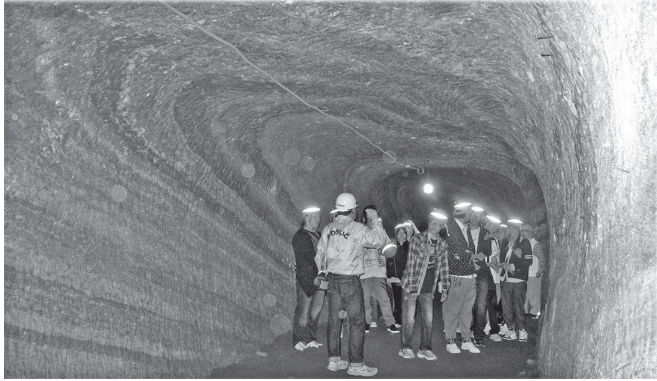
「館山まるごと博物館」の総合学習は、歩いて渡れる無人島「沖ノ島」の環境学習や貝磨きアクセサリー作り体験、木造文化財校舎の見学、海岸段丘や200万年前の海底地滑り地層などを組み合わせることができる。



赤山地下壕の謎

沖合で3つのプレートがぶつかり合う影響から、館山は日本で一番隆起しているといわれる。関東大震災では湾岸部の市街地が99%壊滅し、2つの離れ小島までの間が干潟になった。

そこを埋め立てて、震災7年後の1930年に館山海軍航空隊が開かれた。1×2kmの狭い航空隊基地は通称「陸の空母」と呼ばれ、艦上攻撃機のパイロットや落下傘部隊の養成がおこなわれた。



館山海軍航空隊赤山地下壕跡（館山市指定史跡）

その南側に位置する標高60mの赤山内部には、網の目状に2km近く掘られた巨大な地下壕がある。ほとんど資料がなく、作られた時期は不明である。市教委の文化財看板には「終戦が差し迫った1944年より後に建設されたのではないか」と書かれているが、昭和一桁生まれの周辺住民は「日米開戦前から掘り始められていた」と証言している。

壕内の壁面は凝灰岩質砂岩で、鮮やかな地層や断層が美しい模様を描いている。平和学習だけでなく、総合学習の教材としても人気が高い。大部分が素掘りで、均等な力加減で掘られたツルハシ痕がくつきりと残っている。発電室の壁や天井は、岩盤の上に金網を張ってコンクリートを塗り、崩落防止が施されている。はたして戦争末期の混乱時期に、こんなに丁寧な作業ができるものだろうか。壊滅した震災後の地質調査をしたうえで場所を選定し、かなり早い段階から専門部隊によって秘密裏に掘られたモデル的な地

下壕ではないかと推察される。

本土唯一の直接軍政

艦船ミズーリ号での降伏文書調印式の翌日、1945年9月3日。米占領軍3,600名が館山に上陸し、本土唯一「4日間」の直接軍政が敷かれた。敗戦後の日本の占領政策を考えるための試金石だった可能性が高い。

赤山地下壕内には「USA」の朱文字が残されている。近年、米国テキサス軍事博物館から入手した資料のなかに、館山に上陸した米占領軍司令官の報告書があった。そこには、「完全な地下海軍航空司令所が館山海軍航空基地で発見され、そこには完全な信号、電源、ほかの様々な装備が含まれていた」と記され、赤山地下壕が完備な状態で存在していたことがわかる。単なる防空壕ではなく、館山海軍航空隊の管制機能をもつ航空要塞的な地下施設であったことが示唆される。



1945. 9. 3米占領軍の館山上陸

の提唱を受けて、世界中を「平和の文化」で充滿することを宣言している。「平和の文化」とは、対立が起きたとき、あらゆる生命を傷つけることなく、暴力によらず対話によって解決していこうとする価値観や行動様式と定義される。

戦争末期、安房では農民には花作り禁止令が出されたが、「花は心の食べ物」として命がけで花の種苗を守った農民がいたおかげで、戦後の花畑につながっている。

ほかに、江戸期に建立された平和祈願のハングル「四面石塔」や、清国遭難船を救助した記念の「日中友好」の碑をはじめ、「平和の文化」の教材が多くある。

館山の平和学習は、戦争という一面的ではなく、交流・共生という観点から「平和の文化」を多面的に学ぶことができる。



ハングル四面石塔（千葉県指定）文化財

東面	南面	西面	北面
朝鮮 한글 한글 한글 한글	和風漢字 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛	中国篆字 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛	印度梵字 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

「平和の文化」を学ぶ旅

21世紀を迎えるにあたり、国連はユネスコ

【問い合わせ先】
NPO法人安房文化遺産フォーラム
千葉県館山市北条1721-1
TEL・0470-22-8271
e-mail: awabunka.npo@gmail.com

